

みんなのひろば

視点

新型コロナウイルス感染症の拡大で、政府は緊急事態宣言を発し、私たちの生活はさまざまな制限を強いられました。私が園長を務めることも園でも、いわゆるエッセンシャルワーカーや仕事を休めない保護者のお子さん以外は家庭での保育をお願いすることになりました。

職場に出勤せずに、在宅でテレワークをすることになった方もいらっしゃると思います。そうした中、小さなお子さんをもつお母さんたちは、大変な苦労をされたようです。テレワークで家にいるのだから、そこで育児もできると思われたり、子育ては主に母親の役割であるとか、男性は仕事を休みにくいから女性が休んで子どもの面倒を見る方がいいと言われたり、さまざまな偏見に悩んだ方がいました。

これまでも、子育てをしなから仕事をするのことに対し、「子どもが小さくて大切な時期に、どうして仕事に出る必要があるのか。なぜ、子育てに専念しないのか」と非難されるのはいつも女性です。でも、それは正しいもの見方でしょうか。

日本人が今も見続けている幻はずいぶん昔、みんなが地域ぐるみで子育てをしていた時代のことです。確かに私の

子ども時代は、近所のおじさんやおばさんの目が届くところで子ども同士で遊んでいただけではなく、目の届かないところで遊んでも、今のようないざこざにさらされることは少なかったと記憶しています。



前橋市柏倉町

ふか まち 深町 穰

県保育協議会会長、赤城育心こども園園長

母親だけの役目ですか

けば、不審者に出くわす危険もあります。遊ぶ環境も制限されてきていますが、保護者が、子育ての協力を「近所に頼むこともできない時代になりました。」

核家族が進み、祖父祖母の協力が得にくいだけでなく、どのように子育てをしていくかという伝承も難しい時代です。

女性の就労率が上がるといふことは、男女が対等に社会形成の担い手になるという観点では意義のあることです。さらに、多くの国民が仕事をもち税金を納めるといふことは、少子高齢化の時代の社会保障制度維持には欠かせないことでもあります。

保護者の育児能力の低下を問題視する人もいますが、昔と比べて保護者が変わったというよりも、社会が変わったと捉えることが妥当ではないでしょうか。そうだとすれば、これからの世の中を考えたときに、子育ての責任を保護者だけに負わせるのはいいかがなものでしょうか。

今こそ、「社会全体で子どもたちを育てる」ということを、私たち一人一人が自覚し、さまざまな制度の見直しも含め、子育て世代に優しい地域づくりをしていくことが求められているのではないのでしょうか。

憶しています。

時代は変わりました。多くの家庭が核家族化し、地域によつては隣近所のお付き合いいもなく、子どもだけで出歩

子育ての社会化

【略歴】2003年から

園長。19年、県保育協議会会長に就任。いち早くこども園運営に乗り出したほか、地域子育て支援センターの運営に関わる。上智大学学部卒。